

高橋秀哉作 「敵対心① ウマの合わないやつ」

効果音 (下校時の足音)

部員 A いやー、やっと終わったぜ。

部員 B ほんと。今日は部長も先生も、いつもとは違ってたぜ。

部員 A あと 3 日でコンクールだからな。おい、また音楽室の電気が消えてないぜ。

部員 B また部長と今村がやり合ってたろ。全く今村も今村だけど、部長も部長だぜ。

部員 A いつものことだ。ほっとこうぜ。

部員 B そうだな。じゃ、またあした。

ナレーション ここはある高校の音楽部。コンテストを 3 日後に控え、部員一同大張り切り。ところが部員の今村君と部長の中の悪さは、部の中でも大評判。一体いつからこうなったのでしょうか。

部長 おい、今村、君はいつもそうなんだ。どうして僕の言ったとおりにやってくれなかったんだ?!

今村 なんだと？ おれはおれのやりたいようにやっただけだ。それがなぜ悪いんだ？ 言葉っていうのはもっと自由なものだろうが。

部長 偉そうな口をきくな。君だけ自分勝手なことをしただどうなる？ 部員全員が部長である僕の言うことを聞いてくれなきゃ、いいものはできないってことぐらい分かるだろう。

今村 ふざけるな。おれは君に雇われたわけじゃないんだ。おれはおれなりに考えてやっているんだ。

部長 分かったよ。一人ぐらいいなくなつて、コンテストには参加できるんだぜ。

今村 なんだと？

効果音 (ドアの開く音)

先生 おい、お前ら、いつまでやってるんだ？ いい加減に帰いなさい。

今村 分かりましたよ、先生。おい部長さん、さっきのことは忘れないぜ。

ナレーション いつも彼らは練習が終わると口論を始めるのです。さて次の日の練習日――。

部長 おい、今村が来てないな。

部員 C(女) ああ、今村君、「今日は休む」って言ってたわ。

部長 なんだって？ まあ一人ぐらいいなくなつていいだよ。

部員 C 部長、あなたがそういう考えだから、いつまでも今村君と仲良くなれないのよ。彼に抜ければ痛いことぐらいよく分かってるでしょ。

部長 あ～うるさいな。分かったよ。

部員 A なあ部長、今村はかげでも部長のことかなり悪く言ってるぜ。お互いもうこの辺でケリをつけろよ。

部員 B そうだぜ。いつまでもこの調子だと、おれたちもやりにくいんだよ。

部長 言われなくなつて分かってるよ。そんなことより、あと 2 日しかないんだ。さあ、チューニングだ。

ナレーション こんな感じで、部長は部員たちの言うことも聞かず練習に入るのでした。そのころ、今村君は――。

今村(モノローグ) チクショー、あいつ、いつも口論ばかりだからって、あそこまで…。まあいいさ。簿調のやつ、おれがいなくなつたらどれほど困るか、おれがいかにか重要か、そのうち分かるだろう。

ナレーション 今村君の心のうちも知らず、部長は練習を続けました。

部長 よし、今日はここまでにしよう。

先生 おい、部長はちょっと残ってくれ。

部長 はい、なんですか？

先生 ほかでもない。今村のことだ。どうして君たちはいつもいがみ合っているんだ？ 技術的なことは別として、部員全員の心が一つにならなければ、いい演奏ができないことぐらい知っているだろう？

部長 僕たちは、いがみ合っているわけじゃないんです。ただ彼とは意見が食い違うんです。やり方が違うんです。

先生 君はそう言うが、初めて会った時からそうなったわけじゃないだろう。一体何が原因で今のようになっただんだ？

部長 何が原因かと言われても、ちょっと…。とにかく僕には彼の考えも、性格、やり方、言うことの一字一句が気に障るんです。ともかく彼とはウマが合いません。失礼します。

効果音 (ドアのバタンと閉まる音)

部長(モノローグ) 先生はあんな風に言ってるけど、しよせん今村は違う世界の人間さ。ようし、こうなったら、あいつなしで、今度のコンクールには優勝してみせる。そして、あいつなしでもやってけることを全部員の前で証明するんだ。

<完>